

4 段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
--------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	『子どもたちが安心して生き生き学び、のびのび活動する、魅力ある教育の構築』 「すべては子ども達のために チームにっこば 心は一つ！」 ～共に学び 共に成長する学校をめざして～
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	重点目標 知の基盤づくり (確かな学力の育成) 手段 1 主体的、対話的で深い学び を実現する授業改善 2 家庭学習の充実 3 読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達段階に応じた指導の在り方を実態を見ながら検討していく必要があった。 ・授業改善では、全職員が研究授業を 1 回実施し、単元で育成する資質・能力と本時で身に付けさせる力の明確化を推進することができた。 ・児童アンケート「授業は分かりやすい」85.0%。となり、授業改善が一定の効果を反映したと考えられる。また、そう思わない 15%の要因特定(見通し・振り返り・個別支援)が今後必要である。 ・CRT(結果が出ていないので後日、別途考察) ・地域連携は、様々な取り組みができた。次年度以降も計画的に実施するために、今年度の記録を残すとともに、様々な情報を集めていく。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラスの先生方は、よく子どもを見ており、分からない時は別で時間を作って分かるまで教えてください。 ○ タブレットでの勉強については、その時間はすごく集中して終わるまでと(終わるまでやる)子どもの中でルールがあるのかなと思う。 ○ 家庭読書は共働き世代の中で、ゆっくり読書する時間は保育園や低学年の頃だったので、改めて時間を作る機会を頂いてる。 ● 学年が上がるにつれて、読書の時間が少なくなっているため、今後の課題として取り組んでほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のアンケートから家庭学習は 81.6%は良好だが、約 2 割が非肯定。家庭の学習環境差(時間・場所・支援)、タブレット活用が“作業化”し、学びの可視化(成果・伸びの実感)に結びつきにくいケース、宿題量・難易度・リズムの個別最適化不足が考えられる。 ・タブレットドリルは到達度に応じた出題+紙の書き込み課題を合わせて効果的に進められるように計画していく。 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭読書については、一定の効果が確認されたが、家庭で本を読む児童が少ない現状がある。(進んで本を読んでいると答えた児童は、58.5%) ・週末までに図書室で本を借り週末持ち帰って本を読むことを意識させていくなど、家庭での読書量を増やすための工夫に取り組んでいきたい。 ・毎月の読み聞かせを計画通り実施できた。児童は毎回ボランティア・中学生・校長による読み聞かせに楽しく参加できた。いろいろな本に触れるよい機会となっているので、今後も継続していく。 ・学校図書館協力員と連携し、児童の興味関心を高めるような図書室設営、企画を行うとともに、学習の場としての機能を高めるための工夫を行った。授業でも活用する場面が増えている。 				

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
徳 育	<p>重点目標 徳の基盤づくり (豊かな心の育成)</p> <p>1 望ましい行動様式の 育成(スクールワイド PBSの推進)</p> <p>2 望ましい人間関係の 醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(PBSの研修)スクールワイドPBSの校内研修を実施し、講師から具体的な取組の説明を受け、PBSの核心である「予防的アプローチ」「肯定的行動支援」「行動の視覚化」など、教員間で共通理解が図られた。 ・研修後、各学年部で望ましい行動を設定し、児童へ提示し実践につなげた。 ・「子どもの良さを認める」という行動目標(例:あいさつ・時間を守る・話を聞く姿など)が明文化され、教員が“ほめるポイント”を見つけやすくなった。 ・子どもたちの行動が可視化されたことで、教員の視点が「できていない探し」から「できている探し」へ転換したと推察される。 ・今後も、研修・子ども主体の取組を強化し、スクールワイドPBSを学校文化として定着させる必要がある。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつ当番の時に子供たちが挨拶をしてくれる。こちらも「頑張ってるね」と声掛けしやすい。 ● 依然と比べ良くなってるが、やや子どもの認識と地域の認識に差がある。地域でも、よりあいさつができようになってくれると良いと思う。 ○ 親もスマホやパソコンをする時間が多くなっているので、子供からSNS等のトラブル防止の勉強を教えてもらえる時代になり、親も気を付けようと思えるようになってきている。 ● 学校でもスマホ、SNSに関する講座をやってもらっているが、まだまだ心配であり、親への啓発を含めて、今後も取り組みをお願いしたい。
	<p>3 活力ある地域の人財 としての児童の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の学校生活アンケートを実施し、必要に応じて教育相談を行い、その後のスマイル委員会において、職員間で情報を共有し、指導、支援に活かした。いじめ、不登校の未然防止につながっている。 ・SNSトラブルや仲間関係など、諸課題の増加から、全児童を対象とした未然防止教育の充実をさらにめざしたい。今後、SNS等によるトラブルの未然防止に向けて家庭と連携した取組を行っていく。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域講師や文化財を活用した学習は児童の興味、関心につながり「地域への誇り」や「地域の一員としての自覚」が育ち、キャリア教育の基礎となり、児童が主体的に学ぶ姿勢が強まった。(3年:ほたる学習 6年:歴史出前講座等) ・自主性を高める、自己肯定感を高めていく観点からも児童会活動(児童総会)を軸にした自分達の取組を応援し一人一人の成長・発達を支援していきたい。 			

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
体 育	重点目標 体の基盤づくり (健やかな身体の育成) 1 体力の向上 2 健康的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上プランを職員に周知徹底し、サーキット形式の短時間高運動量活動を導入したことで、授業全体の運動密度が向上した。 ・体力の向上を図るために、まずは、運動に親しむ児童の育成を図る。(授業の工夫などを通して)多様な運動遊びを取り入れたことで、運動が苦手な児童も参加しやすくなった。 ・運動会や持久走大会など達成の場があることで、練習への取り組みが主体的になった。また、今年度持久走大会は、時間を競う、距離を競うという2つのコースを児童に選ばせることで、苦手な児童も前向きに取り組むことができた。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上プランとても良いことだと思います。ゲームや携帯の時代で部活をする子供も少ないので、体を動かして運動の楽しさを知ることができると思う。 ○ 市郡対抗駅伝大会や山麓マラソン大会で頑張っている児童が多く、今後が楽しみである。 ○ 持久走大会では、苦手な子も頑張れるような取り組みがされていて良いと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会での説明や保健だよりによる啓発は、健康課題を“可視化”し、家庭が現状を把握しやすくなったと考えられる。学校側からの継続的な発信が、生活習慣改善への意識を高めたと考えられる。 ・予防(手洗い・マスク・換気・フッ化物洗口)と治療(むし歯治療)の双方で、学校発の働きかけが家庭に届き、行動変容につながった。 ・紙のお便り+学校HP/安心メールなど、複数経路で届け、家庭への到達率を高める。 ・治療案内配布後、一定期間後に受診状況を再確認する。 ・未治療の児童には個別にサポートする(押しつけではなく相談として)。 				

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
食 育	重点目標 食の基盤づくり (健やかな身体の育成) 1 将来に向けた望ましい食習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・給食指導だけでなく、教科・道徳・調理体験との連携など、学びが多面的に行われたことで「食は生活・命に関わるもの」という理解が深まった。(5、6年は食関する出前講座も実施) ・給食感謝集会は、子どもたちの“食の裏側”を理解させ、感謝の気持ちを育てる上で大きく貢献した。感謝の気持ちの育成は給食残食の減少にもつながる流れが見られた。 ・栄養教諭による専門性のある指導が入ることで、食の栄養・健康・安全などの知識が整理され、食育の一貫性が高まった。 ・単に「食べる量」「好き嫌い」の指導だけでなく、「活動量の確保」も組み合わせたことで、より健康的な生活習慣が身につくところ。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食育については、食に興味をもたせることなので良いことだと思います。ごはん、野菜、肉などを育てることからがスタートということも知識が広がって良いと思います。 ○ 栄養教諭の授業の後、残食が減ったのは良いことだと思います。今後も継続して頂きたい。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
その他	重点目標 信頼される学校づくり ○保護者や地域と協働で子どもを育て、相互に信頼し合える学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・文書の重要度に合わせて、紙と安心メールの複数経路で届け、家庭への到達率を高め、確実に学校からの連絡が届くようにしている。 ・欠席フォームの欠席理由欄へ書かれた保護者のちょっとしたメッセージを大切にし、すぐに対応している。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心メールなどのお知らせは、すごく助かる。子どもがプリントを忘れてするので。
	1 安心できる学校づくり 2 地域との連携 3 魅力ある参観日の実施 4 学校の魅力を情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会では、授業や給食の参観をしていただき、助言をいただいている。 ・KSSVCを通して、学校支援ボランティアの方を紹介していただき、今年度は5、6年生の体育でバスケットボールを指導して頂いた。 ・2年生の畝づくり（サツマイモ栽培用）、5年生の米作りにJA青年部の協力を頂いた。特に5年生では、米作りについて、体験だけでなく授業も行っていた。 ・にっこばまちづくり協議会との連携で、西小林中学校、幸ヶ丘小学校と合同で地域防災事業を実施することができた。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年はイベン等もしっかりできて、参観日も保護者での話し合いが、各クラスできていると思います。 ○ 地域が学校だより「けやき」を楽しみにしてくださっているのので、保護者としてもうれしい。 ○ HPで学校の様子を見ることができてよいと思います。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画通り年4回の参観日（懇談は2回）を実施することができた。次年度は、懇談の回数を増やす計画にしている。 ・ 保護者へ積極的に参観日及び学級懇談の内容を伝えると同時に、魅力ある内容を計画するようにしていきたい。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 西小林は、保護者も卒業生が多く、学校に対しても協力的で、先生方も色々工夫してくださっている。子供たちも楽しく学校に通っており、全体的に健全な学校運営がなされていると思います。
		<ul style="list-style-type: none"> ・新聞投稿は、無理の無いよう継続的に行い、今年度は作文10、写真1、絵1が掲載された。（1月28日現在）※昨年度を上回っている。 ・ 学校便り「けやき」を毎月発行し、各家庭、各地区およびJA、郵便局に配付している。 ・ 学校ホームページを毎週1回以上更新し、情報発信している。今後は各種通信等のデジタル化も視野に入れながら、保護者への情報発信の在り方についても検討していきたい。 			

次年度の方向性についての校長所見

本年度は、地域、保護者、関係機関と連携した取組を実施した。特に、中学校区でまちづくり協議会と連携した地域ぐるみ防災事業の取組は、これからの学校の在り方を考えるよい機会になった。また、学校運営協議会等、地域との協議の場で学校への提案、協力を頂けたことは、今後につながると考える。これも、保護者や地域の方のご理解とご協力の賜であると感謝している。今後明らかになった課題解決に向け次年度も努力していく所存である。学校関係者評価を受けて、次年度も次の点において重点的に取り組んでいきたい。

- 確かな学力の育成
 - ・全国学力、学習状況調査、CRT テスト等の分析結果をもとに、基礎基本の定着を図るとともに、授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びの実現を通して、確かな学力を身に付け主体的に学ぶ児童の育成を目指したい。
 - ・読み聞かせや家庭読書など家庭や地域の協力を得ながら、さらなる読書活動の推進を図り、読書習慣の醸成や学力向上につなげたい。
- 豊かな心の育成
 - ・スクールワイド PBS、安全安心な居場所づくり、人権教育、防災教育等を通して、思いやりの心を持ち、主体的に活動する児童の育成を図りたい。
- 健やかな身体の育成
 - ・生活習慣の見直し、家庭と連携した健康教育を通して、児童一人一人が自分の健康や体力向上に関心を持ち、生涯にわたって健康増進に努める基盤づくりを行っていききたい。
 - ・栄養教諭との連携を図りながら、食に関する指導を計画的に行い、食育の充実に努めたい。
- 地域との連携
 - ・にっこばまちづくり協議会を中心とした地域との連携をさらに推進するとともに、キャリア教育を充実させ、学校と地域とが一体となって相互の課題を解決できるよう取組の充実に図っていききたい。